



長野県難聴児支援センター ニュースレター

平成 29 年
第 8 号



長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

5月の連休も明け、この時期に運動会を行う小学校も多くなりました。

先日訪問させていただいた学校では「玉入れ」の練習をしていました。高い網を目がけて投げ上げる子どもたち。先生も応援しながらアドバイスを送ります。「ほら、もっとスナップをきかせて！」「スナップ」という新しいことばはこうして身につけていくのかと思いながら、「きかせる」という日本語が使われることも新鮮でした。（「聞く」ではない「きく」ということばとの出会いです）「話しをよくきく」の他、「交番で道をきく」「薬がよくきく」「あの人はよく気がきく」…ひとつひとつの場面を通して、子どもたちはこうしたことばに「聞きなじんで」いくんですね！（お宝を鑑定する番組では「目がきく」なんて表現もありました。知らなかったらすごい光景を想像しちゃう…）



「長野県新生児聴覚検査ハンドブック」改訂版の発行

「長野県新生児聴覚検査事業の手引書」の一部を改訂した「新生児聴覚検査ハンドブック」を作成・関係機関に送付いたしました。

平成 14 年に発行された手引書をもとに、現在の運用により適した流れ、また、新生児聴覚スクリーニングで「リファー」を告げられた保護者への支援が確実に行われるようにと修正されました。



改訂の主なポイント

- ① 「1次スクリーニング」「2次スクリーニング」の呼称変更
- ② 「フォローアップ」の変更と「小冊子」の活用
- ③ 報告・連絡方法の一部修正
- ④ 新スク施設、2次検査施設の一部修正
- ⑤ 各種「様式」の修正
- ⑥ NICU 等小児科入院となった新生児について追加

新生児聴覚検査ハンドブック



平成 14 年 10 月
平成 19 年 6 月改定
平成 28 年 3 月改定
平成 29 年 3 月改定
長野県
(長野県新生児聴覚検査基準委員会)

※裏面に続く



改訂の意図・解説

- ①「1次スクリーニング」→「新生児聴覚スクリーニング」、「2次スクリーニング」→「2次検査」
産婦人科で広く検査する「スクリーニング」と、耳鼻科でより詳しく検査するという意味から
- ②「フォローアップ同意書」→「フォローアップ同意書・支援連絡票」
「要再検査」となった保護者の支援開始が確実に行われるように、難聴児支援センターとの連携を「連絡支援」という形で協調する。また、支援センターの説明と紹介を兼ねた小冊子「赤ちゃんのことば」を配布
- ③実施報告は「ファックス」、支援連絡票は「郵送」、2次検査の実施報告は「年に一度」
各施設から報告いただく書類について、個人情報が含まれる「連絡票」については郵送（折り返し「支援報告書」をセンターから郵送する際に、追加資料や切手を同封する）
- ④28年度現在で分娩を取り扱っている産婦人科を確認し明記。（平成14年60施設→41施設）
2次検査施設を2病院追加（北信病院とこども病院）
- ⑤旧様式での負担や重複部分を考慮して修正
- ⑥出生後、小児科入院となり新生児聴覚スクリーニングをせずABRを行う場合を考え、図式化

この「ハンドブック」の様式等は、あくまでも「お勧め」です。これまで各施設で行われていた保護者への説明や配布物など一連の流れや形式がありましたら、そのままご活用ください。また、「小冊子」「郵送用切手」等は、必要に応じてこちらから送付いたしますので、ご連絡ください。全ての新生児に「きこえの検査」を願い、今後ともご協力をよろしくお願い致します。

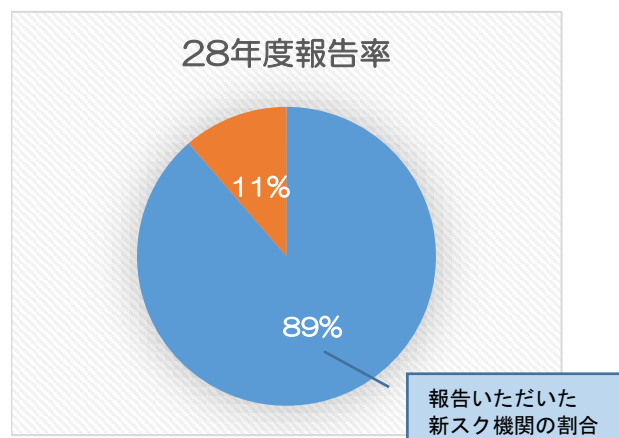


平成28年度「新生児聴覚検査」のまとめ

県内新生児聴覚スクリーニング機関および2次検査機関より、検査実施数を報告いただいています。平成28年度の長野県「新生児聴覚検査の実績」をここにご報告いたします。

対象者数	14,100人
非検査数	204人
新スク検査数	13,896人
確認検査数	195人
2次検査数	118人
確定診断数	13人

※「非検査数」は検査を希望されなかった方の数
※平成29年5月までに報告いただいた数で集計しています



◇新生児聴覚スクリーニングの実施率

$$\frac{13,896 \text{人}}{\text{(検査者数)}} \div \frac{14,100 \text{人}}{\text{(対象者数)}} = 0.985\dots \quad \mathbf{98\%}$$

◇新生児聴覚スクリーニングでの確認検査（1回目リファー）の割合

$$\frac{195 \text{人}}{\text{(確認検査数)}} \div \frac{13,896 \text{人}}{\text{(検査者数)}} = 0.0140\dots \quad \mathbf{1.4\%}$$

◇新生児聴覚スクリーニングからの2次検査の割合

$$\frac{118 \text{人}}{\text{(要再検査数)}} \div \frac{13,896 \text{人}}{\text{(検査者数)}} = 0.0084\dots \quad \mathbf{0.8\%}$$

◇新生児における難聴児確定のおよその割合

$$\frac{13 \text{人}}{\text{(確定診断数)}} \div \frac{14,100 \text{人}}{\text{(対象者数)}} = 0.0092\dots \quad \mathbf{0.1\%}$$

新生児聴覚スクリーニング検査は98%以上の赤ちゃんに実施されており、「確認検査」「2次検査」を経て、約0.1%→1000人に1人の割合で難聴児が発見されています。

「実施報告」を通して、早期発見・早期療育につながっている現状を共有していきたいと思っております。今後ともご協力をよろしくお願い致します。



訪問支援より ～「聞く・話す」の外国語活動において～

訪問させていただく保育園や幼稚園で、「英語」を取り入れた活動も多く見られるようになりました。学習指導要領（学校で何を、どう教えるか定めた物）が、2020年をめぐりに改訂されます。

改訂の方向性
「外国語」

◇小学校中学年（3・4年）から「外国語活動」
◇小学校高学年（5・6年）からは「外国語科」を導入する



◇3・4年から「聞く・話す」を中心に英語に親しむ
◇5・6年からは「読む・書く」を加えて教科として学ぶ

このような取り組みをふまえ、学ぶことやコミュニケーションすることに積極的になってくれたらと願う一方、「きこえにくい」子どもにとって、「聞く・話す」が主軸となる学習方法や内容はどうか…と、心配の声も寄せられます。そんな中、先日「お?!」と思う場面に出会いました。

ある保育園での「外国語活動」の場面です。外国人の先生が子どもたちと「果物」についてやりとりしていました。「みかん=オレンジ」、「ぶどう=グレープ」そして、「さくらんぼ」に「チェリー！」でも丁寧に発音される先生の口元を見ると「ウ」の口形が見えるのです。（2回くらい？）日本語読みの「チェリー」には口角を広げた「イ」の口形しかありませんが、ネイティブな英語発音は違うみたいですね（詳しくなくてすみません）。

きこえにくい子は「人の口元」をよく見えています。

「見て、覚えて、再現する」ことで流れてしまう言語をつかまえています。

「聞く・話す」は「よく見る」力に支えられている！

ここに「外国語活動」に立ち向かうヒントを見た思いがしました。





第1回 ファミリーセミナーのご案内

耳のしくみ 「難聴の診断と治療」

- 1 日時 平成29年 6月10日(土) 15:00~16:30
- 2 場所 長野県難聴児支援センター (松本旭町庁舎2階『多目的室』)
- 3 講師 **宇佐美 真一 教授** (信州大学耳鼻咽喉科教授・難聴児支援センター長)
- 4 内容
 - ・いろいろな聴力検査と検査結果について
 - ・耳のしくみとその機能について
 - ・遺伝子検査の重要性について 等
- 5 参加費 **無料**

電話、ファクス、メール等でお申し込みください。



みみよい情報

◇聞こえやすい環境づくり「テニスボール」

新学期が始まり、「騒音への配慮・きこえやすさ」に着目して、教室のイスに「テニスボール」を装着している学校がありました。(「ギー」「ガタガタ」という音を防止する効果があります) 補聴器や人工内耳をしている子にとって「きこえやすい」環境は、どの子にとってもわかりやすい環境になります。



長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

支援療育員；丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等

お気軽にご連絡ください

